



せら夢公園自然観察園
延安 勇さんに教わる

ヒョウモンモドキ

せら県民公園管理責任者、せら夢公園自然観察園主任、ヒョウモンモドキ保護の会副事務局長。自然豊かな世羅の保全活動に力を注ぐ。



A. ヒョウモンモドキはタテハチョウ科に属すチョウです。別グループのドクチョウ亜科のヒョウモンチョウと見た目がよく似ているので「ヒョウモンモドキ」と呼ばれています。県内では三原市と世羅町だけに生息し、7月頃、キセルアザミの葉に産卵。幼虫はその葉を食べて成長し、8月頃から動かなくなり、集団で越冬します。3月頃に目覚めると、再びキセルアザミの葉をエサとして成長し、5月末、6月に羽化。チョウになると、主にノアザミの蜜を吸います。



ヒョウモンチョウの中でも世羅でよく見られるツマグロヒョウモン

Q. 絶滅危惧種について教えてください！

A. この地域には湧水が多く、幼虫のエサとなるキセルアザミの生育に適した湿地が広く点在し、田んぼの周囲にはたくさんのノアザミが花を咲かせていることが考えられます。しかし、開発や農地の整備などによってキセルアザミやノアザミが育つ場所が少なくなりました。ヒョウモンモドキも減少していきまました。現在、「絶滅危惧ⅠA類」に選定されています。



キセルアザミ

世羅高原の豊かな自然やワインが楽しめる！

せら夢公園
☎0847-25-4400
△世羅郡世羅町黒淵 518-1
◎9:00～17:00 (冬期10:00～16:00)
休み/3・6～8・11・12月は火曜。
1・2月は火、水曜(祝日の場合は翌日)
入館料/入園無料

Q. 保護活動について知りたい。私たちにできることは？

A. 「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」が、生息地の草刈りや調査、研究、勉強会のほか、せら夢公園敷地内にある「自然観察園」のハウスの中で、飼育、繁殖などの保護活動を行っています。皆さんには、まずはヒョウモンモドキ保護に関心を持ってもらいたいのです。キセルアザミやノアザミを踏みついたり採取したりせず、生息地の自然を共に守っていきましょう。



A. 伊勢神宮を祭る「神明祭り」は、室町時代末期に日本全国に広まりました。三原でも「神明市」が始まり、全国からたくさんのお客が集まる大きな祭りに成長。1950年ごろに「だるまくじ」が販売され、売り場の目印として日本一と書いただるまを設置。そんなことから、全国の露店や町内会

A. 三原だるまの特徴は4つ。
①「願いが成る」よう小石や鈴を入れてあって音が鳴ること、②豆絞りの手ぬぐいを巻いていること、③最初から目が描かれていること、④転んでも必ず起き上がること、です。縁起がいいですよ。

みはら歴史と観光の会
鈴木健次さんに教わる

だるま

市内の歴史愛好家が1991年に設立した「みはら歴史と観光の会」で事務局長を務める。郷土史の探査や史跡の整備など、精力的に活動。



Q. 三原神明市が「だるま市」と呼ばれるのはなぜ？

A. 江戸時代、三原の城下町に住む下級武士が内職として作り始めたという説があります。ただ、残念ながらそれを示す文献が残っていないので、はっきりとは分かりません。一時は途絶えていた三原のだるまですが、歴史や郷土史を研究し、小学校で校長をされていた久保等さんが、卒業生への贈り物として復活させました。

Q. 三原のだるまは、いつごろから作られているの？

Q. 三原のだるまの特徴を教えてください



制作中のタコだるま

も、だるまを販売するようになったようです。神明市当日は、干支だるまやタコだるまなど、個性豊かなだるまが所狭しと並びます。



「日本一のだるま」は現在4代目。高さ3.9m、重量約500kg

三原だるま工房
☎0848-67-5877 (うきしろロビー観光案内所)
△三原市城町 1-1-1
◎9:00～18:00
面相描き体験/月・水曜13:00～16:00、土曜10:00～12:00
※祝日は除く、要予約。体験料 600円
休み/年末年始